



久留米大学

御井図書館ニュース

No.85 2014年6月1日発行

書籍の収蔵場所から知の工房へ

外国語教育研究所所長 岩田好司

3年ほど前から全国大学図書館職員を対象とした研修の講師を勤めている（ウェブ検索：「大学図書館職員短期研修」）。私が担当しているのは導入的な部分であり、協同的なグループワークの仕方を教えている。というのも研修参加者は、4日間の研修最終日に、その成果をグループプレゼンすることになっているからである。2時間半にわたるワークショップを通じて、同じ図書館員でも考え方、感じ方が実際に多様であることに気づき、その違いを力としていくグループができあがっていく。やや固い感じのするときもあるが、情報伝達の正確さや、情報整理の緻密さはさすがである。

ワークショップはグループワークの仕方のみならず、そのさせ方を学んでもらうことも目的としている。図書館のあり方が急速に変化するのにあわせて、図書館職員の業務も変化しており、教育学習支援に直接的に関わることが求められているからである（ウェブ検索：「大学図書館職員の育成・確保」）。たとえば学生に図書館のオリエンテーションを行ったり、情報リテラシー教育を行うのも図書館員の役割だが、いわゆる講義形式で行うのではなく、学び合い形式のアクティブラーニングで行った方が効果的であり、その時に協同的なグループワークのさせ方（ファシリテーション）技術が生きてくる。

こうしたグループワークの仕方、させ方を学ぶことは、新たな知のあり方や、教育の方法への理解を助けるだろう。知とは静的に存在する「物」ではなく、社会的、協同的に絶えず再構築されていく「意味」のことである。書籍は物だが、そこに記されているのは情報である。かつてはそれを収蔵し、その情報を個人的に取り出す場が図書館であった。しかし現代の図書館は表面的な情報を得る場ではなく（それだけなら図書館に行く意味があまりない）、沈思黙考すると同時に、その結果をもって人々が交流し、社交し、新たな知を生み出す工房へと変貌しつつある。そのために図書館内にグループワークのできるラーニングコモンズを設け、カフェや昼寝のスペースまで作っている例もある。

どのようなスペースが学生の多様で、自由な学びを可能にするのだろうか。個別性をより重視したスペースのみならず、グループワークのできる個室や、オープンスペース、そしてグループプレゼンのトレーニングができる録画可能なスタジオ。そしてなにより、人と情報、情報と情報、人と人をつないでくれる図書館員やアシスタントや教員が必要だろう（ウェブ検索：「【アカデミック・リンク コンセプトビデオ&ブック】千葉大学 アカデミック・リンクとは？」）。

このような図書館は孤立した（建）物ではない。あらゆる人と情報を緩やかに結ぶ「意味」ネットワー

クの結節点となるだろう。図書館員ならずとも夢はふくらむばかりである（ウェブ検索：「H24 年度大学図書館職員短期研修グループワーク」）。



私の図書館利用

商学部 4 年 松尾 諒

私は定期的に本を読むと言う習慣を持っていないが、久留米大学の図書館はよく利用している。本を借りるためにだけに図書館を利用していたのではない。図書館は学生にとってとても便利な場所である。私がどのように図書館を利用していたかを紹介しよう。

私がよく利用する部屋は、図書館 3 階の閲覧室である。学内でパソコンを使う場合は、情報教育センター 2 階のフリースペースを利用する人が多いだろう。しかし、フリースペースのパソコンは利用者が多く、空いているパソコンを見つけるのに苦労する。とくに平日のお昼時は、たいていほとんどの席が埋まっていて利用できない事が多い。そういうときこそ、図書館を利用するのである。図書館 3 階の閲覧室には情報教育センターと同じパソコンが設置されている。もちろん Word や Excel も使うことができるし、インターネットも使える。さらに図書館のパソコンを使えば、図書館の本と併せてレポートの作成に活用できるのである。

閲覧室の次によく利用したのが勉強スペースである。図書館にはたくさんのテーブル席があり、4 人囲んで座れるものだけでなく、パーティションで 1 人 1 人区切られているスペースもあり、集中して勉強したい場合にとても役立つ。窓際で景色を望める席もあり、私は好んでそこに座っていた。また、電卓やパソコンを利用できる席もあるので、1 人で作業するにとても役に立つし、簿記や宅建などの資格取得の勉強や、就職活動における選考試験の勉強もできる。

その他、本を借りるつもりはなくとも本棚を見て回わることもある。気になる本のタイトルを見つければ手にとって、パラパラとめくっていくのも面白い。自分の専攻している以外の分野の本棚で新たな発見があるかもしれない。とくに一般図書のコーナーには、最近流行りの本や人気の作家の本があるので、たくさんの本に出会うことができる。一般図書コーナーの近くに併設されている専用のパソコンで本の検索も簡単にできる。また、資格や就職活動関連の本を置いているコーナーもある。

1 階の新聞のコーナーには多くの新聞を読めるスペースがある。全国紙だけでなく地方紙もあるので、新聞を取っていない一人暮らしの学生は毎日ここで新聞をチェックするといいだろう。

以上、私がどのように利用したかを書き出してみたが、図書館が如何に学生にとって便利かを理解してもらえば幸いである。私が利用しきれなかった設備やコーナーもあるが、後輩の皆さんには図書館のあらゆるところを利用してもらって、大学での勉強に励んでもらいたい。もちろん、勉強だけでなく、3 階のパソコンを利用したり、面白そうな本を探してみたり、ちょっと立ち寄ってみたりするだけでも良いと思う。様々な使い方ができる久留米大学の図書館は、学生にとってとても有益な場所なのである。

貴重資料企画展「西南戦争 - 報道と、その広がり」のお知らせ

文学部准教授 大庭卓也

御井図書館が所蔵する貴重資料を一般公開する試みとして、一昨年より、ささやかな企画展を催している。第一回目は、図書館内に併置する筑後文化資料室収蔵資料のなかから、江戸時代前期の儒学者貝原益軒の著作を紹介した「貝原益軒の学問と著作」（平成24年7月2日～8月31日）であった。

第二回目となる今回は、やはり、筑後文化資料室収蔵資料から、西南戦争に材をとった錦絵を中心に紹介し、戦争報道の虚像と実像を明らかにしようとした「西南戦争 - 報道と、その広がり」である。さいわい、今回は企画展のために文学部の予算を割いていただき、充実したチラシ、ポスター、展示図録などを作成することができた。その甲斐あってか、複数の新聞やテレビニュースで、この企画展のことが取上げられ、学外の人々も多く観覧に来られているようである。企画者として、こんなに嬉しいことはない。企画展を催すにあたり、ご理解とご尽力くださった関係各位に、この場を借りて厚く御礼を申し上げる次第である。

今回の企画展は二部の構成をとり、第一期「戦争の始まり・混乱過熱する報道・大阪での報道」（4月15日～6月13日）を終了し、ただ今、第二期「さまざまな報道・戦争の終結・暮らしへの浸透」（6月16日～8月16日）に移ったところである。各メディアによる報道や、アンケートによる来場者の反応については、後日あらためて報告することとしたい。以下には、図録に執筆した拙文を再掲して、本企画展のねらいをあらためて提示しておくこととする。

*

*

*

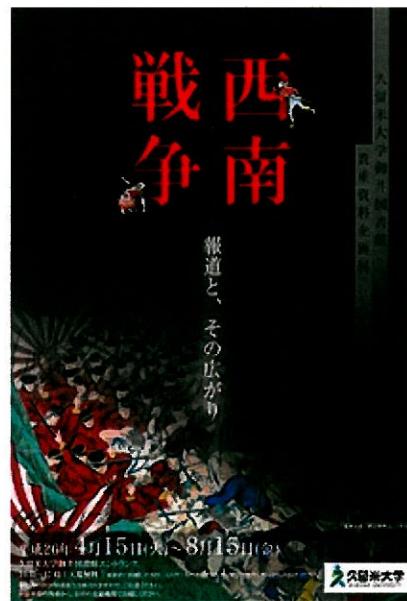
九州の人間にとって、明治十年の西南の役は、いたって身近な歴史上的の事件である。私のようなまだ若輩に属する世代でも、小さい頃から折にふれて、田原坂の戦いで命を落とした美少年の悲話などを、家庭や学校で聞いて育ったという人は少なくないであろう。また、歴史を教わるようになってからは、教科書やその他色々な本で、官軍と薩摩軍の交戦を描いた錦絵も目にすることになり、当時こうした戦争絵が、新聞の代用であったことも次第に理解したように記憶する。

江戸文学を研究していると、自然、明治の書物を手にする機会も多いが、そんな時、書名に「西南」とか、「鹿児島」とか、「西郷」とか、そういう文字を冠した実録風の読物や草双紙に出くわすことがしばしばある。いずれも明治十年、おそらく二十年を過ぎない頃の刊行で、皆一様に西南の役に材をとっている。これらが、歴史の教科書で見覚えてきた錦絵や、明治に普及した新聞報道と干渉をもつものであることは、畠違いの研究をする私などにもぼんやり推察できて、まだ江戸の余風ただよう当時の文壇が、この戦いをめぐって大いにもり上がり、西南戦争物とでも呼ぶべき一箇のジャンルを、文学史上に形成していく

ることが思われてくる。

しかし明治十年頃といえば、かつては文学の暗黒時代などと評されもした時期である。西欧の文学理念を視野に入れながら新たな小説のあり方を模索して、わが国近代文学論の起点となった坪内逍遙の『小説神髄』の刊行は、さらに降って明治十八年まで待たねばならない。近時、篠田仙果の『鹿児島戦争記』に註釈が加えられるなど（『新日本古典文学大系明治編13』平成十九年、岩波書店）、研究に新たな動向が見られるものの、西南戦争物の作品群は依然として、近代文学の研究では冷遇視されている感は否めない。また、他の領域でこれら作品群が研究の対象とされる場合にも、おおむね、西南戦争を視覚的に理解する補助資料、あるいは明治期の浮世絵やジャーナリズムの一側面を考えるための材料ほどにしか扱われず、おびただしい数の錦絵や実録草双紙の全容を把握したうえで、それら相互の影響関係や内容推移の検討が、これまで充分に行われてきたとは思われない。

本企画展は、近代文学の研究の立場から、西南戦争物に取り組んでいる生住昌大氏（佐世保工業高等専門学校講師）に協力してもらい、以上のような問題意識のもと、西南戦争の報道がもつ文化史的な波紋を改めて考え、江戸から明治にかけての文学史のひとコマを明らかにしようと試みるものである。なお、展示の準備には私のゼミ生諸君に当ってもらった。古い文物をじかに手にすることが、わが国の歴史や文化への理解を深めるきっかけになるとえたからである。



【平成 26 年度 御井図書館運営委員紹介】

御井図書館長	石川 捷治 教授 (法学部)	
文学部	原岡 薫 教授	狩野 啓子 教授
法学部	石川 真人 教授	佐々木 拓雄 准教授
経済学部	山下 純一 教授	畠中 昌教 准教授
商学部	異島 須賀子 教授	高橋 宏幸 准教授
大学院比較文化研究科	浦田 義和 教授	
大学院心理学研究科	津田 彰 教授 (文学部)	
大学院ビジネス研究科	異島 須賀子 教授 (商学部図書委員長兼務)	
法科大学院	松本 博 教授	
健康・スポーツ科学センター	原 賢二 講師	
外国語教育研究所	島村 恭輔 教授	

*附属図書館長 石川捷治教授は御井図書館長を兼ねる。

選書ツアー参加者募集

日 時：平成 26 年 7 月 12 日（土）14 時
場 所：ゆめタウン久留米（紀伊国屋書店）
募集対象：文学部・法学部・経済学部・商学部の学部生。
募集〆切：平成 26 年 7 月 10 日（木）
選書額：1 人 5 万円迄。



図書館向けデジタル化資料 送信サービス開始

国立国会図書館が標記サービスを開始したことに伴い、
2月3日(月)より御井図書館で利用可能になりました。

図書館向けデジタル化資料送信サービス（図書館送信）は国立国会図書館のデジタル化資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な約131万点の資料を、承認を受けた図書館で閲覧・複写ができるサービスです。

【利用できる資料】



図 書：昭和43年までに受け入れた図書 約50万点
古典籍：明治期以降の貴重書等 約2万点
雑 誌：平成12年までに発行された雑誌 約67万点
博士論文：平成3-12年度に送付を受けた論文 約12万点

【利用方法】



本学の学生、教職員のみ利用できます。但し、相互貸借での
申し込みは受け付けておりませんので直接ご来館ください。
利用を希望される方は、カウンターへお申し出ください。

図書館利用状況(2013年度)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数		29	26	30	31	30	29	31	28	28	26	27	30	345
入館者数	対前年同月比	1,477	-1,639	-820	-3,631	-4,423	-837	-1,127	-2,099	-974	-2,241	-450	-257	-17,021
	学内者	14,346	14,883	14,628	20,995	5,791	6,889	15,547	13,416	11,914	17,096	3,813	3,028	142,346
	対前年同月比	167	374	152	259	-345	-30	-113	-196	132	-402	-661	-341	-1,004
地域住民登録者数	その他学外者	1,641	2,334	2,080	1,834	1,074	1,241	1,773	1,351	1,366	775	765	988	17,222
	対前年同月比	2	-10	-14	-6	-7	-8	-1	-5	9	-17	-12	-2	-71
	地域住民	45	25	22	32	21	21	24	15	26	10	11	16	268
貸出冊数(学生)	対前年同月比	538	-92	-126	106	-254	-29	206	-142	-27	-122	43	10	111
	全体	2,121	2,689	2,456	2,834	1,160	1,500	3,101	2,868	2,608	2,422	577	354	24,690
	対前年同月比	153	-20	-92	-59	-14	42	47	40	-20	-61	21	-8	29
	内、夜間	435	603	540	704	208	271	688	700	573	659	67	22	5,470
	対前年同月比	-44	-68	-29	-55	-45	2	29	57	-14	115	9	-33	-76
貸出冊数(教職員)	内、土・日曜	110	122	177	178	155	163	210	216	236	267	130	54	2,018
	一人当たりの貸出数	0.36	0.46	0.42	0.49	0.20	0.26	0.53	0.49	0.45	0.42	0.10	0.06	4.24
	対前年同月比	96	-45	56	91	19	141	-38	-58	69	14	38	-7	376
貸出冊数(その他学外者)	全体	608	303	336	340	276	347	348	307	328	314	250	270	4,027
	対前年同月比	-3	-5	19	42	-3	29	31	22	5	24	8	16	185
	内、夜間	48	65	90	80	26	59	134	90	67	87	13	22	781
	対前年同月比	32	-5	0	2	-13	-11	-1	11	33	21	0	-7	62
	内、土・日曜	44	10	26	13	35	27	10	23	51	41	51	13	344
貸出冊数(AVライブラリー)	対前年同月比	27	13	39	41	5	7	-50	-10	-14	54	62	25	199
	全体	271	282	316	183	183	262	237	223	229	78	259	306	2,829
	対前年同月比	25	32	45	19	17	-18	-27	-37	-20	20	15	7	78
	内、夜間	92	130	129	75	35	56	78	76	46	20	36	46	819
	対前年同月比	4	-24	17	-6	12	-9	-17	36	41	38	4	14	110
利用件数	内、土・日曜	96	59	108	58	86	108	78	88	107	38	103	162	1,091
	対前年同月比	0	2	-7	3	5	2	31	11	0	3	-6	1	45
	学生	0	3	1	6	10	2	34	16	5	5	6	1	89
	対前年同月比	-12	-29	13	-10	6	5	-13	28	12	11	27	4	42
	教職員	12	17	27	12	8	14	14	48	28	15	32	11	238
相互利用(文献複写)	対前年同月比	-2	-1	0	-2	0	1	0	5	0	-1	0	2	2
	その他学外者	0	0	0	0	0	1	0	5	0	0	0	2	8
	対前年同月比	-29	-8	21	-5	-15	-8	-37	-5	86	46	2	9	57
	学生	17	55	71	32	20	35	46	80	141	57	14	20	588
	対前年同月比	18	-1	-20	-44	-37	0	8	3	-52	-6	30	-31	-132
申込件数	教職員	39	30	44	31	26	22	55	31	19	16	53	11	377
	対前年同月比	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他学外者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相互利用(現物貸借)	対前年同月比	-2	2	3	-5	6	0	-1	3	-6	1	-2	1	0
	学生	0	4	5	1	6	0	2	5	0	2	0	1	26
	対前年同月比	-15	2	-12	-6	-6	-5	-28	4	7	1	-6	-21	-85
	教職員	3	11	17	5	6	16	5	17	18	10	13	4	125
	対前年同月比	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他学外者	その他学外者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

<貸出冊数についての注記>

- 教職員の貸出には、専任教員の研究室貸出分を含まない。
- ”夜間”とは、平日の17:00～21:00の夜間開館時間を指す。
*なお、4月1日～4月10日、8月9日～9月20日、12月24日～12月27日、2月3日～3月31日の期間は夜間開館を行っていない。
- 地域住民への貸出は、7月16日～8月8日、1月7日～1月31日の期間は停止している。
- 学生一人当たりの貸出数は、平成25年5月1日現在の御井キャンパスの学生数 5817 人で算出。(留学生別科、聴講生は除く)



TEL(0942)44-4015

FAX(0942)43-0348

<http://www.mii.kurume-u.ac.jp/miilib/>